

施策改善シートの詳細(県民評価者に記載いただいた「改善提案シート」を課題・提案内容等により分類)

※複数の提案に跨るものについては、いずれかの提案内容に分類しています。

6班 豊かな自然、文化、歴史に根ざした美しい景観の形成

課題	県が何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
定量評価できる基準の検討・地域住民等との継続的議論の実施					
美しい景観のはかり方	住民の人たちの協力が必要	市町	自分ごとで考える		
美しい景観の回り方	ルール作り。数値化して見えるものもあるのでは		ルール作り		
美しい景観の測り方	目指すべき景観を考える、方向性の設定	市町	アンケートをとるなど、住民の意見を収集	専門家	目標とする景観について議論
美しい景観の測り方					
美しい景観の測り方	最低限の評価基準を設定する 県→市町へは通達法は課題	専門家チーム	最低限の評価基準を設定する 県→市町へは通達法は課題		
美しい景観の測り方	住民と目指す方向性の共有が必要のため審議会などを作る。景観に関する条例、審議会を作り地域ごとの基準を作っていく。				
美しい景観の測り方	住民と方向性を共有し優先順位を決めて基準に沿って進めていく	市町	景観議論推進委員会等をテーマに合ったメンバーを募り、リアルタイムですすめていく。	個人	景観議論推進委員会等をテーマに合ったメンバーを募り、リアルタイムですすめていく。
美しい景観の測り方 数値表現は難しいが基準が必要	観光アドバイザーの意見を聴取しまた、モニター制を採用し意見を集約する。				
美しい景観の回り方について	“住民意識の高まり”など具体的データに根差して書く主観だけに基つかない客観的データに基づいて“うつくしい”について考えていく必要がある。				
美しさ、概念的なものの測り方が難しい	定量的な評価ができる基準作り アウトプットも評価する。	市町	県に求めるものを明確にする。	個人	学校教育・文化形成
美しさ、心の豊かさの概念的なものの回り方が難しい	分かりやすい基準を作る。	私(住民)	身近の風景をきれいに保つ。(掃除、ごみを捨てないなど)		
美しさ・心の豊かさの概念的なものの回り方が難しい	景観計画策定の流れ(PDCAサイクル)を数値化する。				
美しさの測定(基準)の難しさ	意見集約という方向性の策定・補助。積極的な参画とディスカッションの実施 (コメント)美の基準は人それぞれ。正解はないので議論を続けるしかない。個人・世代・文化・人種等様々な要素で決まるもの。正解がないことを念頭に議論すべき				
開発と景観保持のバランス。法規制が必要なことの見極め	開発(建築物そのもの、現在あるものの破壊)に対し何らかの規制が必要。企業のモラルに依存する部分が多い。住民の良い意味での監視で成立する部分もある (コメント)文化的環境的価値のあるものが破壊されることのないようお願いしたい。一度失われたらもう戻せない。				
本物への感動(安っぽい建築物ではない)を与える街づくり。 色の調和への配慮を大切に。	色の基準を作り、数値化する。素材を吟味する。	店舗(飲食店、セレクトショップ、美術館、自社、子民家	その地域のアイコンとなるような建造物などへの共感を地域で共有する		
多様な媒体を活用した情報発信の強化					
景観維持におけるSNSの活用	観光業の促進				
景観作りの情報発信不足	教育の分野での発信や若い方へのSNSだけでなく、周知してもらうための方法をもっと考えていく。 もっと多くの県民が、この施策を知ってほしいと思う。				

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
景観に関する県民の情報発信不足、理解度促進	消極的な市町へ積極的に働きかける		市町はいろいろな問題があり、景観のことは後回しなのか。市町が真剣に考える。		
景観に関する情報発信	情報は、魅力を感じなければ、自分からアクセスしない。観光地へ行った時にスマホで情報を手軽にキャッチできる様にする。観光地にQRコードを設置して、スマホでそれを読み取ると観光地の歴史等を知ることができれば、興味を持ってもらえるし、口コミで広がっていけば、リピーターも増えていくと思います。				
景観の保全	情報提供	市町	行政が機会を提供し保全作業をする。	市民	行政と共に積極的に保全活動をする。
県民が景観について興味を持つ、情報を受け取る	教育機関、各自治体と連携して様々な世代に景観の情報を伝えるようにする。大学生やインスタグラマーなど影響力のある人と連携してよい写真の提供、情報発信を行う				
県民の情報発信が不足している	地域コミュニティと連携して魅力的な景観をつくっていく	観光客	SNSで発信する	地元の企業	美しい景観をつくっていく
県民の情報発信が不足している	デジタル＋アナログを駆使して県民に周知する。景観賞に関して、県民参加型にするなど	個人	県の行いに対してレスポンス(景観賞に投票するなど)をするべき。自らも発信していく。	市町	県とのつながりを更に強めて、共に情報発信していくことが大切。
県民の情報発信が不足している		県民	県が発信している情報をRTなりコメント付きRTなりで発信する。		
県民の情報不足	SNSなどを活用するときは、作作的にならないよう、若い人の感性を取り入れる	市町など	学校教育の中に地域に関する授業を取り入れる。		
県民への景観に関する情報発信が不足している	発信方法を周知する。実施方法を工夫する。	県民	県の発信、活動に興味を持つ。自ら広める。地域とのつながり強化。	市町	学校教育に組み込む。
県民への情報発信不足	市町村の取組への支援(人的・財政的支援、情報共有、教育)	市町	住民の気運醸成が進むよう刺激する。その地域の素材の価値を伝える。	住民	自分の地域を知る。誇り・愛着を持つ。まず自分のところから大事にする→地域に広がる
県民への情報発信方法	SNS・ホームページを利用できない(使えない)高齢者への対応を考えて欲しい。→冊子等で直接伝える。	地元自治体	定例会等で情報連絡し、下部組織(組単位)の住民1人1人に伝える。		
住民の生活と観光のための景観の両立	教育委員会				
住民の人から景観に対する理解を得る	住民に対して景観を整えることに対しての目的、方法、メリットを伝える	市町	住民の意見を聞く	個人	自分の住んでいる町を誇りに思うようにする
情報発信	具体的な情報収集・発信方法の策定	市町	県に対しても情報発信	私	主にSNSを利用した情報発信
情報発信について	生活に係わることが多く住民の理解が必要であるため、様々な方面からの発信が必要・小中学校でも授業に取り組み、歴史や遺産や地元のことについての理解を深める。インスタやSNSなどへの投稿				
情報発信を誰の目にもつく方法で行う。	発信場所との交渉	JR,広告会社	例えば金沢駅のように、JRで静岡をおとすれた人がまず目にするモニターを作り、静岡をアピールするなど。静岡駅前をもっと作り込んで(東京駅・金沢)、まず目にする静岡県の印象を目に焼き付けてもらうことができればよいと思った。		
モデルケースの発信(地域住民の景観づくり推進に向けて)	なぜその地では成功しているのか調査、発信	市町企業	地元企業が市町による協働の発信		
観光と住民の生活が両立、市町等関係機関との連携強化					
観光客にとつての非日常が住民の日常どう折り合いをつける?	市町とともに住民との話し合いの場を設ける				
観光と景観、観光地と他地域での重点化の区別	観光地域の指定と補助、市町との連携。	市町	地域観光協会が中心となって具体策を実施。特に観光ガイド、ボランティア等の意見を聞く	協議会	地域観光協会が中心となって具体策を実施。特に観光ガイド、ボランティア等の意見を聞く
観光と景観との関連性		市町	そもそもバランスは誰にもわからないのでは?生活か観光かどっちかに決めて開発するのではないか	地元	そもそもバランスは誰にもわからないのでは?生活か観光かどっちかに決めて開発するのではないか

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
観光と景観の関連性	街(景観)を自分事として捉えられる自治会を創り、住民のEncourage策 基本投資+躯体メンテ→行政 軽メンテ(草取り、ゴミ広い、etc)→自治会	市町	街(景観)を自分事として捉えられる自治会を創り、住民のEncourage策 基本投資+躯体メンテ→行政、軽メンテ(草取り、ゴミ広い、etc)→自治会		
観光と景観の両立	地域のコミュニティーや小中学校と連携し、景観の整備や草取りなどを行う				
景観と店、広告物のバランス	観光地での広告等の簡単なガイドラインの作成	市町、地域住民	細かなルール作り、店との協議		
住民の生活と観光のための景観	目指す基準を作ってほしい 遺産とするものの発掘など 安全性・利便性なども含めたインフラを整備して欲しい。				
住民の生活と観光のための景観の両立	住民が暮らしやすい景観も重視していく	企業	地域の景観との共存も大事にした設計、経営をする		
住民の生活と観光のための景観の両立	観光と住民の生活のバランスを取るためのサポート	私(住民)	観光との結びつきへの話し合いに参加する。		
住民の生活と観光の両立		個人	多少の不便は住民が我慢しなければいけない部分もある。景観は観光資源であると同時に生活の一部なので、多少の忍耐は必要。失ってからでは遅いと思う。不便を楽しむくらいの心の余裕が必要。利便性の向上が生活レベルの向上になるわけではない。		
生活と観光のための景観の両立					

住民参画の機会の創出

幹線道路沿いの雑草について一足元の景観を	基本的には、道路管理者が行うべきだが、昔のような道普請という制度を復活するような運動を市は自治会、町内会で。				
行政と県民の認識の差	Twitterやインスタで定期的に情報発信を行う。	市町	県民や県が発信している情報が地域に限定しているものであったら情報を重ねる。		
景観	協力してもらおう。地域活動	市町	協力してもらおう。地域活動		
景観の創造	アドバイザー提供	市町	具体化をする	市民	地域の歴史・文化・自然を提案
景観法の現状課題	景観法の意義の啓蒙活動	市町	景観法の意義の啓蒙活動		
県民参画の機会の不足	学校と連携して県の取組・課題を説明	市町	学校と連携して市町の取組・課題を説明、フィールドワークやイベントの推進	学校	県・市町と連携して小・中・高、大学で地域志向の授業を導入、学生が地域をプロデュースする機会をつくる
県民の参画機会の不足	住民の参画イベントの開催・中学、高校、大学等の教育との結びつき	市町	県と同様に住民参加型のイベントや教育の推進	私(住民)	日常から景観への興味を傾ける。
県民の参画の機会の不足	小・中・高・大学の教育プログラムについて見直す。教育委員会に働きかける。県立高校でモデル校をつくるなど。	市町	総合・生活の時間を景観について学ぶ時間に割り当てる	個人	学生であれば、主体的に授業に取り組む。親であれば、子どもの話を聞いたり、一緒に景観のいいところに出かけたりして、一緒に学んでいけば。
広い部分だけでなく細かい部分の景観にも配慮する	住民からの意見を求める。観光、ぱっと見などの大きいことを求めるだけでなく細かいことにまで意識をする。				

景観まちづくりに関する学習の機会の充実

景観について学校での学習機会の不足	教育委員会等と学習機会の計画	教育委員会、学校	学習の実施		
小、中、高校で景観まちづくり		県民	学校で事業の中へ取り入れる。	県民	市町の人達と一緒に色のコントラスト
小中高の景観・地域教育の促進	各学校へのプログラム(企業による)を卸す	NPO、企業	教育プログラムをつくる		

その他

美しい景観	最低限の景観(ゴミ、破損等)の保全を市町へ命令	市町	最低限の景観(ゴミ、破損等)の復旧	私	ゴミを捨てない
美しい山の景観を＝竹林が森林をこわしている	森林税の一部を充当 市町とJAが協力して、伐採するように				

課題	県が何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
観光と景観との関連性	お茶ミュージアム、食事茶そばが高い件がどこまでわかっているのか	イベント会社	お茶ミュージアム、食事茶そばが高い件がどこまでわかっているのか		
区画整理認定に当たって	特に組合で設立する場合は景観を条件に付すべき				
公共空間の高質化。駿河区海岸の景観復刻(広い砂浜、松林)	海岸の消波ブロック(テトラポット)をなくして砂浜化する方策検討	地元自治会	海岸清掃・・・継続中 緑化(松の植林)		
国道・県道等の道路に駐車場	ケイタイの確認・写真をとる、絵を描く、トイレ、富士山をゆっくり見る	市町	ケイタイの確認・写真をとる、絵を描く、トイレ、富士山をゆっくり見る		
指定された重点地区の継続を	建物を建て替え、修繕がダメになり継続していくうえで、継続していくためには、市への補助金増やすべき。				
牧の原お茶の里ミュージアム	食事の発注、イベント会社に依頼している。見返をしてください。				